

# 響



ひびき

〒384-0006  
小諸市与良町6-5-5  
TEL.0267-31-0251  
FAX.0267-31-0140



令和3年10月29日  
No.5

実  
る



絵に表そう。  
あの時の動きを、あの時のあのかけ声を、形にしよう。  
ああしたりこうしたり、色々と凝らしてみたら、  
こうなった。  
思いが実って形になったって感じ。

## 響 第5号「実る」 -もくじ-

授業から学ぶ 「学びを人生に生かす」 授業 社会 2

授業から学ぶ 必要な支援を 必要なときに 特別支援教育 3

ICT活用 何度も繰り返し！図形の操作 4

生涯学習課より 5

ついこの間まで半袖だった子どもたちの腕が、長袖で隠れ始めました。耳を真っ赤にしながらも、元気に外で遊んでいる姿に嬉しくなりますね。

季節は秋から冬へ移っていきますが、子どもたちの中では、積み重ねてきたものが実っていく時です。

子どもたちが思いを形にする瞬間に、私たちはそっと寄り添っていきたいですね。

「響ひびき」これまでのバックナンバーはこちらからご覧になれます。  
本誌掲載の実践などのより詳しい内容については、事務所までお問い合わせください。

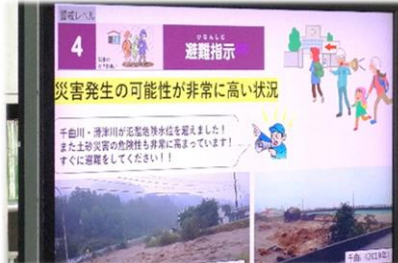


授業から学ぶ  
(中学校・社会)  
地理  
「地域の在り方」

「学びを人生に生かす」授業

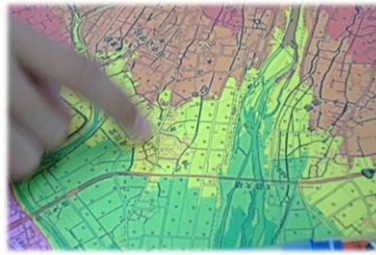
A中学校の地理の授業は、3つの資質・能力の1つ、学びを人生に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」が生徒の中に育まれることにつながる実践でした。

導入



水害を想定し、もしもの時に、自分がどう行動するか考える活動場面で、教師は警戒レベル別の災害状況の写真を映した。この中学校では、数年前、学区にある川が濁流となって氾濫しており、B生はそれらの写真を見ながら、自分の住む地域で起こった水害を思い出した様子だった。生徒の中に川の氾濫の際、どのレベルで、どのように行動すべきかという課題が生まれた。

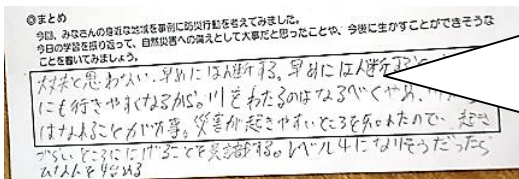
展開



B生は、同じ地区の生徒で編成されたグループの友と一緒に、建物や道路が簡略化された地図(左)、標高別に色分けされた地図(中)、防災マップの3つの地図を見比べ、避難経路を考えていった。実際の地形や道路を思い出しながら、「そこは川に近いよ」「あの建物は高いから水が来ても大丈夫そうだ」などと話し合い、何度も考え直していた。

まとめ

教師は、1時間の学びをねらいに沿って振り返ることができるように、具体的な視点を示した。



◎まとめ 今日の学習を通して、自然災害への備えで大事だと思ったこと、今後に生かすことができそうなことを書いてみましょう。

大丈夫と思わない。早めに判断する。早めに判断すると、高い所にも行きやすくなるから。川を渡るのはなるべくやめ、川から離れることが大事。災害が起きやすい所を知れたので、起きにくい所に逃げることを意識する。レベル4になりそうだったら避難を始める。

B生のまとめからは、危機意識を高め、避難の際に気を付けたいことや、避難を始めるタイミングを具体的にイメージできていることが読み取れます。被災の経験から課題意識をもち、友と共に主体的に考え、判断し、行動しようとする高めることができました。こうした学習を通して「学びに向かう力・人間性」が育まれていきます。「学びが人生に生きる」ことにつながりそうですね！



## 授業から学ぶ 特別支援教育



# 必要な支援を 必要なときに

「それって、本当に必要な支援なの？」これは私が特別支援学校に勤務していたとき、先輩の先生から問いかけられた言葉です。この言葉の答えの1つがA中学校1年技術・家庭科「いすづくり」の授業でのB先生の支援にありました。

## 視覚情報の提供

言葉だけで情報を得ることが難しいと感じている生徒のために  
⇒視覚でも情報を捉えることができる支援や環境を設定

### ①先生の見本を示す

- ・学級全体に向けて、先生がかんながけを実演する
- ・かんながけが困っている生徒の様子を捉えて、生徒が使っているかんなの刃を調整し実演する

先生のかんながけの様子をじっくり見ていました。その後、友だちと先生の姿勢や手を動かすスピードについて、ペアの言葉を交わし、かけ方を確認してから、削り始めることができました。



### ②必要なときに視聴できる動画を準備をする

- ・生徒が参考にできる動画を場面ごとに準備し、どの生徒も自分が確認したいときに見ることができるようにを保存する

ポイント

1人でじっくり見てから削る生徒や、何度か削った後に、動画で確認する生徒など、それぞれのタイミングで動画を視聴し、薄く削るために何度も挑戦する姿が教室のあちこちでみられました。



## 自分の考えを表現 できる状況づくり

自分の思いや考えを伝えるのが苦手な生徒のために  
⇒自分の考えを表現できる状況を設定

### ①生徒の表現しやすいグループ編成をする

- ・どれくらいの人数、メンバーだと作業しやすいか生徒たちと相談して決める

ポイント

かんなの刃の出具合を確認し合うペアや、それぞれのかんなくずの薄さを見合ってから削り方を相談するペアなど、教室のいたるところで声をかけあって互いに相談し、スムーズに取り組んでいました。

### ②どの子も考えを伝えることができるツールの使用をする

- ・本時の振り返りにアンケートツールを使用する

1時間の授業が満足したものだったからこそ、自分が削ったかんなくずの山に目を向け、時々手に触り、じっくりと本時を振り返りながら、入力していました。



B先生は、生徒が必要だと思うかどうかを考えていました。子どもたちにとって、行き過ぎた支援も足りない支援も子どもの育ちにつながりません。目の前にいる子どもたちにとって、必要な支援は何か、必要なときはいつかを常に考えていきたいものです。



## 何度も繰り返し！図形の操作

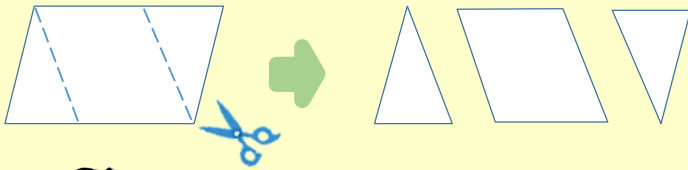
ICT活用  
(小学校・算数)



平行四辺形の面積を求めるとき、直角三角形や長方形など求められる図形に分けて考えます。その際、作業に手間取る子どもにはICT機器を使ってみる方法はどうでしょうか。

👉 今までは・・・時間をかけて紙を切りながら考える

平行四辺形を、今まで学んできた図形に切って、分けて考えますが・・・



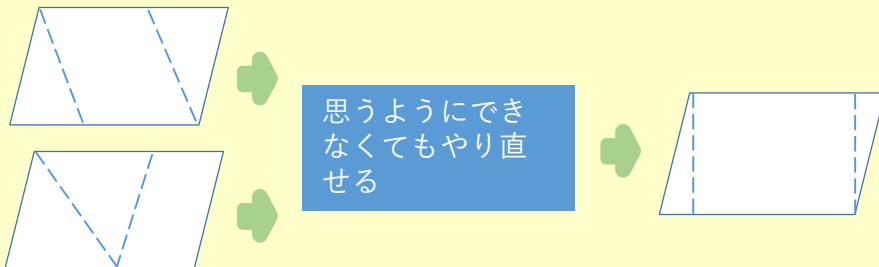
あれ？長方形じゃないから面積は求められないや。うまく切るのは難しい、大変だ。



この児童は、平行四辺形から、今までに学習してきたことを生かして2つの三角形を作りました。しかし、真ん中には平行四辺形があるので、このままでは求められません。また新しく切り直すのには時間がかかってしまい、追究を投げ出してしまいそうです。



📱 今では・・・ICT機器を使って何度でも繰り返し追究できる



ICT機器を活用することで、思うようにできなくてもやり直すことができるので、学習を支えることにつながります。

中には、紙で実際に切った方が考えやすいという子もいるので、追究の方法として、どちらを使うかを選択できるようにするとよいでしょう。



何度も繰り返し追究をしてようやく自分の考えがもてた子どもたちは、思わず近くの仲間のところに行って、画面を指でさしながら、自分の求めた方法を説明し合います。このような活動がさまざまな考え方にふれることにつながり、深く考えることが期待できます。



いろいろな方法で追究することで、切り方を工夫すれば計算しやすい図形を作り出せることがわかり、粘り強く追究することができるようになります。資質・能力の育成に向けてICT端末の活用も含め一人一人の子どもに合った方法を支援、実践し、教室での学びをさらに充実していきましょう。

NEW!

## 新規入荷『スポーツ用具』紹介！

パラスポーツ・障がい者スポーツ体験に！

### ◆ターゲットシート <6枚>

90cm×90cm

- ・床敷き使用
- ・ボッチャの  
チーム練習用に  
最適！



### ◆ミニボッチャ <3セット>

ミニ（写真上）  
直径60mm、重量90g

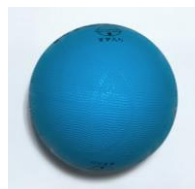
通常（写真下）  
直径86mm、重量275g



- ・テーブル上や狭いスペースで
- ・低学年向け

### ◆すず入りボール <9個> ドッチボールの大きさ

- ・「ゴールボール」の体験に
- ・屋内での「ブラインドサッカー」にも対応！



## 「借用申請書」がダウンロードできます！

NEW!

- 1 まずは、電話で確認・・・ ①借用物品 ②必要個数 ③希望借用期間
- 2 ホームページから、借用申請書をダウンロードして入力・・・ メール送信

**検索**：東信教育事務所 → イベント → スポーツ用具貸出について

### 上半期貸出数実績

- 1位 ボッチャ：16回
- 2位 ストラックアウト：15回
- 3位 ラダーゲッター：7回

以下

- ・輪投げ
- ・ガラッキー
- ・トリコロキューブ
- ・キンボール
- ・ネットネットゲーム
- ・バグゴ

※上記の用具や種目のルールについても、お問い合わせください

『ルールやゲームの内容について知りたい！』  
『どこで、だれと、こんなことをしてみたい』  
という相談も、気軽にお問合せください。  
地区行事や公民館活動でも、ご利用できます。  
(PTA役員、地区役員さんにもご紹介ください)

### お問い合わせ

東信教育事務所 生涯学習課  
担当：柿沼 宏直  
TEL：0267-31-0252  
E-mail: toshinkyō-shogai@  
pref.nagano.lg.jp



長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ